

平成28年度第1回総合教育会議

日 時 平成28年11月22日（火） 午後4時00分～午後5時03分

場 所 小金井市役所第二庁舎8階 801会議室

出席者 15人

総合教育会議構成員

市長	西岡 真一郎
教育長	山本 修司
教育長職務代理者	鮎川 志津子
教育委員	福元 弘和
教育委員	渡邊 恭秀
教育委員	岡村 理栄子

関係部局

学校教育部長	川合 修
生涯学習部長	西田 剛
庶務課長	加藤 真一
学務課長	河田 京子
指導室長	小林 正隆
生涯学習課長	石原 弘一
公民館長	前島 賢
図書館長	菊池 幸子
庶務係長	平野 純也

事務局

企画財政部長	天野 建司
企画政策課長	三浦 真
企画政策係長	古賀 誠
企画政策課主任	高野 修平

傍聴者 5人

（午後4時00分開会）

◎西岡市長 皆様、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから平成28年度第1回総合教育会議を開催いたします。師走が近づきまして大変お忙しくなるこの時期にご参集いただきまして、まことにありがとうございます。また、教育長、教育委員の皆様には、日ごろより小金井市の教育行政に多大なるご尽力をいただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

なお、本日の進行につきましては、会議の主宰であります私が務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

早いもので、私が市長に就任をさせていただいてから約1年が過ぎようとしております。市長としての緊張感を抱えながらこの総合教育会議を開催し、私の教育への思いを表明させていただいた日を昨日のことにように鮮明に記憶しております。と申しますのも、小金井の教育にかかわる思いに変わりはなく、小金井市の総合力、すなわち市民や地域の力で子育て環境日本一を目指したいと強く願っております。

小金井市教育委員会の皆様におかれましては、小金井市が育んできた教育のよい歴史や伝統を守りつつ、時代の要請に応える質的転換を念頭に置きながら、引き続き小金井市の教育をしっかりと守り抜いていただきたいと考えております。

さて、少し早い気もいたしますが、今年1年を振り返りますと、総務省が進めるプログラミング教育の実証事業実施校である前原小学校に高市総務大臣が視察に訪れ、ICT教育に関する先進的な取組として、マスコミ等でも大きく取り上げられたことが記憶に新しいところがあります。校長先生をはじめ多くの教員の方々の多大なるご尽力があつてのことと存じますが、全国の先駆けとなったことは大変誇りに思っております。

また、スポーツの面においても、小金井野球クラブがパンパシフィック国際大会で優勝されたことをはじめ、数々の大会で優秀な成績をおさめるなど、小金井の子どもたちの目覚ましい活躍が目立った1年でもありました。子どもたちのさまざまな活躍の報告を伺うたび、私自身も子どもたちに負けずに頑張らねばならぬと自らを鼓舞しております。

もう1点、今年の3月と7月に発行された『勇気と希望が湧いてくる魔法の言葉集』を拝見しまして、大変感銘を受けました。子どもたちを取り巻く環境が厳しさを増す昨今、この魔法の言葉集はまさしく「心の中の灯火」であり、今後も小金井の子どもたちに勇気と希望を与え、心の中を明るく照らし続けていただきたいと思います。

まだまだ話したいことはたくさんあるのですが、時間も限られておりますので、本日の議題に入りたいと思います。

初めに議題第1号、放課後子ども総合プランについてを議題といたします。こちらについて、担当部局から説明を求めます。

◎石原生涯学習課長 それでは、説明させていただきます。

従来、文部科学省の趣旨説明では、各市区町村におきまして、教育委員会が主導して、本市で申しますところの子ども家庭部と連携を図り、原則として全ての小学校区で放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを進め、文部科学省の放課後子ども教室推進事業と厚生労働省の放課後子ども健全育成事業、これは本市で申しますところの学童保育所の事業に当たりますが、これを一体的あるいは連携して実施する総合的な放課後対策といたしまして、放課後子どもプランを推進するとされていたところです。

今日的には、女性の活躍推進のためには、共働き家庭等のいわゆる「小1の壁」を打破する

とともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができるよう、文部科学省と厚生労働省が連携して、総合的な放課後対策に取り組むことの必要性がより強く打ち出されているものでございます。本市におきましては、放課後子ども総合プラン事業といたしまして、東京都を通じまして、事業費の3分の2を国と東京都の財源を活用して事業を行っているところでございます。

補助金の交付を受けるためには、先ほどご説明申し上げたとおり、教育委員会と子ども家庭部をはじめとしまして、多様な主体が参加し連携いたしまして、地域の実情に応じた施策の展開を行っていく必要があります。そのための組織として、生涯学習課が事務局となり、放課後子どもプラン運営委員会を開催し、年6回の会議を行っているところでございます。

また、各小学校区には、教育委員会から委嘱したコーディネーターのもとに推進委員会が開催され、学校関係者とボランティアとの調整などが行われております。なお、各小学校区のコーディネーターの方などからなります放課後子ども教室実行委員会というものが設置され、放課後子ども教室運営を教育委員会から委託されているところでございます。

説明は以上です。

◎西岡市長 部局の説明は終了しました。それでは、皆様のご意見等を伺いたいと存じます。発言される方は挙手をお願いいたします。

◎鮎川教育長職務代理者 鮎川でございます。よろしくをお願いいたします。

今のご説明を聞きまして、また自分の子どもをかつて参加させていただいた経験から、放課後子ども教室はボランティアの方の役割が大変大きいと感じております。小金井市は文化的活動、スポーツなどにおきまして、皆様、大変高い能力、指導力をお持ちで、そして高い志を持ってくださる市民の方が多くいらっしゃると感じております。

そのような方々がボランティアとしてかかわってくださるということは大変ありがたいことであります。ボランティアの方々に力をお借りしていますが、逆にボランティアの方々はどのようなことにやりがいなどを感じて、このような事業に携わってくださっているのでしょうか。

◎石原生涯学習課長 先ほどの説明がちょっと簡単だったので、この後、皆様方からいただくご意見などの参考になるような情報も合わせて提供させていただきたいと存じます。

ボランティアの方々につきましては、謝金をお支払いしてお願いする有償のボランティアの方と、完全に無償で参加していただいているボランティアの方がいらっしゃいます。有償の方と申しましても、3時間程度の拘束時間に2,000円程度の謝礼ということで、本当に気持ち程度の謝礼をしているというのが現状でございます。

それから、有償のボランティアの方につきましては、1つの教室につき、基本、原則1名、学習アドバイザーという方をお願いしてありますが、この方は、放課後子ども教室でいろいろな体験を教えてください方になります。それから、放課後子ども教室に参加する子どもたちの安全を確保するというボランティアの役割を担っている安全管理員という方が2名から5名の方が1教室について有償ボランティアとして携わっていただき、事業を運営されています。

どちらもそういった気持ち程度の謝礼でやっていただいている方でございますので、ボランティアをする意義というものを肌身に感じて参加していただいている方ばかりであると思っておりますが、例えば学習アドバイザーなどは、長年、社会教育活動を続けていただいていた方が引き受けていただいている現状があります。最近はスポーツに関する指導の要請などもあり、スポーツ推進委員も学習アドバイザーとして参加していただくこともあります。

また、地域のために何かをしたいという思いを持っている方は、こういった役職の経験者だけに限らず、ご自分の経験したことや学習したことを生かして、子どもたちのために事前に十分な準備をした上で携わっていただいているというのが現状の放課後子ども教室のボランティアの方々のスタンスです。こういった方々は、教える喜びを感じていただいていることもありますがけれども、事前に準備することなどによって自分も学んでいくということについてもやりがいを感じて、継続して携わっていただいているのではないかと考えています。

また、安全管理員の方々につきましては、何よりも子どもの安全のため、事故なく教室が終わった1日を満足されて、また次回の放課後子ども教室でもそういった事故なく開催するということを目的として、安全管理員を続けていただいているのかなというふうに思っております。

無償のボランティアの方々につきましては、謝金を受けている方々だけが責任を感じて、重い負担を感じて行っているということではなく、みんなでサポートして、連帯感などを感じて携わっていただいているのかなというふうに思っております。

ボランティアの方々には、地域の方や保護者の方以外にも、将来、子どもにかかわる職業につく可能性のある東京学芸大学の学生の方々も、将来のため、子どもに接するためということで、やりがいを感じてやっていただいているのかなというふうに思っております。

以上です。

◎鮎川教育長職務代理者 わかりました。ありがとうございます。

◎西岡市長 ほかにございますか。

◎福元委員 安全対策についてですが、学校だと登下校、それから校内にいる時間全て、長い経験の中で、検討に検討を重ねてある一定の対策はできていると思うのですが、この放課後子どもプラン事業の場合は、平成19年に事業が開始してから大して時間も経っておりません。安全対策について、今、考えていらっしゃるものがあつたら教えていただきたい。

◎石原生涯学習課長 東京都で放課後子ども教室推進事業を始めるに当たって、これは放課後子ども教室になる前の東京都地域子ども教室と言った時代の話になりますが、安全管理の手引きというようなものを発行してしまして、学習アドバイザーの方、安全管理員の方の情報の連携のあり方であるとか、緊急時にどのような連絡体制をとるのかということや、今、課題になっているのは、放課後子ども教室の運営プランの中で、こういった古いものだけではなく、本市に適した安全管理マニュアルについても作っていきましょうということが議題となって、話し合われているところでございます。

また、小学校区ごとに安全に対する温度差などもありますが、先進的な推進委員会の中では、

安全管理の研修的な説明会なども十分に話し合われ、放課後子ども教室が開催されているということがございます。

◎福元委員 ありがとうございます。

◎西岡市長 ほかにございますか。

◎渡邊委員 放課後子ども教室と学童保育所を一体、又は連携という形で開催するとは、具体的にはどういうことでしょうか。また、当然、メリットとデメリットとあると思うのですが、そのご説明をお願いしたい。

◎石原生涯学習課長 一体型と申しますのは、同一小学校の敷地内におきまして、放課後子ども教室と学童保育所が、可能な範囲で共通のプログラムを実施することです。放課後子ども教室の参加者が学童保育所のほうに行くということはなかなかないので、本市の場合は、学童保育所に通っている子どもが、保護者が早く帰宅するような時間などについては、学童保育所を早退して放課後子ども教室に参加する、そういう1つの放課後子ども教室のプログラムに学童保育所の児童も放課後子ども教室の児童も共通して参加できるというのが一体型でございます。

それから、単に物理的に場所だけが一体的に開催されるというわけではなく、そのプログラムを企画する段階から打合せなどを行って、学童保育所の関係者と放課後子ども教室の関係者が十分に意思疎通を行った上で開催するというのが、一体型のあるべき姿とされているところです。

そのメリットといたしましては、学校施設と学童保育所の施設、同じ場で開催されるものから、施設が有効に活用できるということが1つあるのかなと思います。それから、学童保育所の児童にとりましては、指導員やいつも学童保育所に一緒に通っている子どもとの同じ生活だけではなく、幅広い年代の方との触れ合いなどが体験できるということも挙げられるかなと思います。放課後子ども教室の児童にとりましては、学校内でしか遊べない子との交流以外に、ふだんは遊べない学童保育所に通っている子どもとの交流などもできるということについては、放課後子ども教室側のメリットとしてはあるのかなというふうに思います。

それから、これは子どもだけの施策ではなく、かかわる大人も巻き込んだ施策ですので、放課後子ども教室と学童保育所にかかわる大人にとっても、互いの指導方法や子どもへの接し方の多様性などを吸収できるといった効果もあると思われま。

連携型につきまして、実施場所が小学校の同一敷地でない、場所が小学校から離れているというところが大きな相違点ですが、内容につきましては、場所が離れていても、お互い連絡をしたり相談をしたりしながらやっていくというメリットは活用できていると思いますので、そこは一体型だから、連携型だからということによって、内容のメリット、デメリットの差は出てこないのかなというふうに思っております。

デメリットといたしまして、これは23区や多摩地域も同様の現状ですが、余裕教室がないという自治体が非常に多くあります。施設的なメリットを現時点であまり期待できないということのほかに、これまで学童保育所と放課後子ども教室の制度の成り立ちが異なる制度設計が

されてきた歴史もあります。放課後子ども教室は居場所や学習の場、学童保育所は生活の場という側面がありますので、連携を図っていくためには互いの趣旨を理解していかないと、一体型、連携型と申し上げましても、今後の運用に支障を来たすような事項も出てきてしまうのかなというところが懸念としてはあります。

以上です。

◎渡邊委員 ありがとうございます。

◎西岡市長 ほかにございますか。

◎岡村委員 今は小金井市の人口が増加していますけれども、そう遠くない将来は人口が減る可能性もありますし、だんだん共稼ぎの人が増えて、放課後、フォローしなくてはいけない学童が増えることは間違いないと思います。そういったときを迎えて急いで施設のことや施策のことを考えるのではなくて、今からその準備として余裕教室を利用した一体型放課後子ども推進プランを念頭に考えて、試行錯誤していくことが大切なことではないかと考えていますので、よろしくお願いいたします。

◎西岡市長 ご意見ありがとうございます。

ほかにございますか。

◎鮎川教育長職務代理者 意見も申し上げてよろしいですか。

◎西岡市長 ご意見もありましたらどうぞ。

◎鮎川教育長職務代理者 現在、小金井市では学童保育所は小学3年生まで、放課後子ども教室は小学6年生まで受けられるということですね。小学4年生といえば、個人差はあると思いますが、放課後1人では不安なお子様もいらっしゃると思いますし、逆に成長の早いお子様は思春期に差しかかってきて心の不安定な時期もあり、複雑な年齢とっております。小学4年生以上のお子様は、放課後の居場所があるというのは、とてもすばらしいと感じます。

また、小金井市の小学校は、先生方のすばらしいご指導の中で縦割りの活動、縦割り遠足や、兄弟学級など、さまざまな異学年の交流を推進してくださっています。それだけではなく、学童保育所、放課後子ども教室にて、プログラムなどに応じて自由に参加できる場所で、多くの学年の方と交流できるというのは大きなメリットになると思います。

先ほど渡邊委員の質問に対して石原生涯学習課長がお答えになっていた中でも、日ごろ、遊べないお子様と遊ぶことができる、交流ができる、また、大人の方にとっても指導方法の多様性の吸収などのお答えもありました。大人にとっても、そして子どもたちにとっても、多くの方と触れ合えてさまざまな体験ができる場があるのは、貴重な体験になると思いますので、すばらしい事業だと感じております。

◎西岡市長 ほかにございますか。

◎福元委員 私も1つ意見を述べさせていただきます。新たな社会情勢に応じたプログラム展開といいますか、学習支援とか生活困窮世帯への対応など、これから考えていくことが必要かなと思っております。

◎西岡市長 ありがとうございます。

◎山本教育長 この問題については、議会などでもさまざまな方からご意見をいただいています。そこで私も何度か答弁させていただいたのですが、今後、女性がどんどん活躍する社会になっていきますから、安心して夕方まで子どもを預けて、子どもも伸び伸びと生活できる場というのは重要性を増していくと思います。そのときに、先ほどの石原生涯学習課長の説明だと、まだ相互乗り入れ的イメージですけれども、当面はそれで行くしかないと思うのですが、ゆくゆくはこのシステムを根本から考え直して、放課後子ども教室と学童保育所と、さらに児童館も含めて、全ての子どもたちが、親が共働きであってもなくても構わない、小学3年生までという条件も、これをもっと小学6年生まで、そういう形でシステムを構築していくことが必要なのかなと私は思っています。

これは理想論を述べているように聞こえるかもしれませんが、決してそうではなくて、行革の理念にも合い、おそらく人的なことなどを考えてみても財政的な負担は大幅に増えることはなく、抜本的な改革ができるのではないかと思います。

これは極めて個人的な期待ですけれども、意見を述べさせていただきました。先行自治体がありますので、そういうところを研究しながら取り組んでいく必要があるのかなと思っております。

以上です。

◎西岡市長 教育長、委員の皆様方から大変有意義なご質問やご意見いただきましてありがとうございます。

先ほどもご説明があったところですが、放課後子どもプラン事業については、教育委員会と市長部局とのこれまで以上の連携が何よりも非常に重要になると私も感じていますので、引き続き子どもたちにとって最良の環境を提供するように努力してまいりたい、このように思っておりますのでよろしく願います。

また、教育委員の皆様方には、今後も引き続きお力添えをお願いいたしまして、議題1については終了させていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、続きまして、議題第2号、今後の教育施策についてを議題といたします。

平成28年度から、第2次明日の小金井教育プランのもと、日々、計画の実現に向け努力をしていただいていると認識しております。いずれも重要である施策の中で、今後、特に力を入れて取り組むべき重点課題等について、教育委員の皆様方のご意見などを伺いたいと存じます。ぜひよろしく願います。

ご発言ありましたらお願いいたします。

◎鮎川教育長職務代理者 私は、ICT教育の推進について発言させていただきます。先ほど、市長の最初のお話の中でも、総務省が進めるプログラミング教育の実証事業実施校の前原小学校のお話をしてくださいました。ICT教育の重要性は高まっていると思います。私自身は、

教育委員になる前に、情報教育アドバイザーやコンピュータ管理者として、学校のコンピュータ室の導入からかかわらせていただきましたが、時代が変わっていき、それに伴い、ICT教育の推進すべき内容も、日々、変化していることと思います。

国では平成32年度までに児童・生徒に1人1台のタブレットの整備という目標を掲げています。ICT機器はお金がかかるものですので、申し上げにくいことではあるのですが、この国の目標に近づけるよう推進していけるといいと感じております。

昨年度、東京都のICT教育環境整備支援事業の指定校として、小金井第一小学校、東小学校、東中学校がタブレットを活用した授業を、学校公開などで拝見しました。先生方は、研究されていて、タブレットを使うことを目的ではなく、タブレットを道具として授業力を上げるようなすばらしい実践を目にしてきました。

ICT教育に関しては、研究成果なども発表されていると思いますが、小金井市も前原小学校というすばらしいパイオニアがいますので、推進されるといいと思っております。

ICT関係でもう1点、先生方が校務で使用しているパソコンについて、年数が経ってきている点も、入替えなどの対応が必要になってくると感じております。

特に校務用のファイルサーバーに関しましては、導入から5年以上が経過しています。個人情報持ち出し禁止を先生方が守ってくださっていて、またセキュリティ面も万全にしているために、一切、外には持ち出せない。つまり、そこに全てが、集まっている状況です。経年劣化等で破損があった場合、先生方にとってご負担が大変大きくなってしまいます。失うものも大きいと思います。お忙しい先生方が子どもたちと向き合う時間を少しでも多くし、教材研究などにも時間を多く割いていただけるように、校務用の機器に関して、先生方のご負担を減らすような方向で考えていけたらよいという思いでおります。

◎西岡市長 非常に貴重なご意見をお聞きできました。また、現場の先生のご苦勞も伺いました。ありがとうございます。

ほかにございますか。

◎福元委員 私は、小金井の各小中学校が市の重点として取り組んで、それなりに、今、成果を上げてきている「授業力の向上」ということについて、発言させていただきたいと思います。

教師が児童・生徒を指導する上で最も大事なことは目の前の個々の児童・生徒に寄り添い、今、置かれている児童・生徒の状況をしっかり把握しながらその願いを受けとめ、その児童・生徒に必要な力を身につけさせていく指導を進めていくことに尽きると思います。

学校教育は、いろいろな地区で、いろいろ論議され、地区によっては何千万円もかけていろいろな施策がとられるなど、さまざまな形での取組が行われています。でも、やはり最も大事なことは先ほど申し上げたことを基にした次の3つじゃないかと思います。

1つは、確かな児童・生徒理解に基づいた指導の場をしっかりと作ってあげること。2つ目は、変化の激しいこれからの社会を生きていくための基礎となる確かな学力をしっかりと身につけてやること。3つ目はその1、2を十分に支えることのできる教師を確保すること。その3点

じゃないかと思えます。

そういう意味から考えたときに、これらにこたえられる教員の「授業力の向上」は、とても大事だと思っております。現在、小金井市の小中学校では教員の授業力向上を重点施策に取り上げて推進しています。例えば、大きいのを言いますと3つ挙げられると思えます。

1つ目は、全教員による講師を招いた授業研究の実施です。全員が研究授業をしながら自分の指導力を高めようとする取組をしているのは、多分、私の経験の中では、まれに特別な学校で取り組んでいるというのは聞いたことがありますけれども、市内の小中学校全部がそれに取り組んでいる例は、私はあまり耳にしていません。その難しい課題に取り組んでいます。

2つ目は、学校の校内研究の充実です。校内研究は、これまでも実施されてはいるのですが、小金井市の場合、それをさらに充実すべく、児童・生徒の実態を十分に丁寧に分析して、自校の課題をしっかりと捉えて研究を進めております。また市や都、国の指定を受けたり、委託を受けたりして、そういう予算や人材をうまく活用して研究に取り組んでいます。その努力もわかってほしいなと思っております。

3つ目は、授業力向上に関する教員の研修の実施です。たくさん実施しています。教員が市内の研修だけではなくて、都や他市の研修にも積極的に参加しながら授業力を向上しようとしています。

この3つは、「授業力の向上」に向かって取り組んでいる非常にいい姿ではないかなと思えます。この取組の成果があらわれつつあることを感じる事ができます。運動会とか作品展等の学校行事の機会や、学校訪問や学校公開の機会に見られる授業の様子、教室の児童・生徒の様子、それらから十分に感じ取れると思えます。

先日、研究発表をした小学校と中学校がありました。そのときの様子を見ていても、小学校も中学校もそうですけれども、子どもたちの主体的な授業に取り組む姿、それを十分に見ることができました。また、それをしっかり支え引っ張っていつている先生たちの姿もまた見る事ができました。

小金井市の児童・生徒はよそから高く評価されることが少なくありません。これらは考えてみると、地域や保護者、行政の支援が大きいことはもちろんですけれども、それと同時に、教員の授業力向上への取組に支えられている部分も大きいということを否定できないのではないかなと思っております。そう考えたとき、これからの小金井の学校教育の充実のためにも、教員の授業力向上という施策は温かく見守ってほしいし、さまざまな面から特に手厚く支えてほしいと思っております。そういう施策だと思っておりますので、ぜひ大事に見守っていただきたいと思えます。

よろしく申し上げます。

◎西岡市長 ありがとうございます。

「授業力の向上」の重要性を、十分再認識いたしました。ありがとうございます。

ほかにございますか。

◎渡邊委員 私は学校施設の整備の推進ということでお話ししたいと思います。

近い計画と将来的な計画と2つあると思うのですが、まず先日、南中学校で創立40周年記念式典があり参加したのですが、そのときに、あの学校が小金井市で一番新しい学校だと伺いました。ということは、一番新しい学校で40年経っているということです。そして、第一中学校に行きますと、体育館の天井にボードが張ってあるのですが、落下する可能性がある。そして、バスケットゴールがありまして、怪我はなかったのですが、実際にバスケットゴールの一部の部品が落下し、直すことになったと。要するに、当面は修理等で改善をして使わなくてはいけないということです。

今は逆に増えているのですが、将来的には、少子化といいますか、子どもが減っていくという可能性がある。その辺の計画は非常に素晴らしいと思うのですが、市全体を見た場合、適切な学区域の見直しといいますか、それも考えまして、どのような配置が一番適切か考えなければいけないと思います。JR中央線も高架になりましたので、南北の交通のリスクはなくなったと思うのですが、その配置をどのように考えるか、また学校を建て直す場合、ほかの施設と一緒にするとか、総合的に判断していただきまして、そのように考える部署といいますか、それを今のうちから考えておかないと、10年、20年経って、いざというときに考えても遅いということで、そういう場をぜひ市長のお力で設置していただけるとよろしいかなと思っております。

◎西岡市長 学校施設のみならず公共施設全体の老朽化への対策が求められておりまして、今、公共施設等総合管理計画を策定している過程ですが、市の重要課題と位置づけて、これからしっかり対応してまいりたいと思います。

ほかにございますか。

◎岡村委員 今年度より整形外科医が学校医になりました。小金井であまり驚かれてはいないのですが、全国的に、整形外科医が学校医になったというのは結構素晴らしいという話になっています。

実際、東京都医師会の学校医会に医師会の理事が参加して、他区医師会等の方とお話ししたら、学校健診で側弯症検診は非常に難しく、皆さん、いろいろ問題があったり、質問が多かったんですけども、小金井は整形外科学校医のおかげでそういうことがないということで、非常にありがたいというお話でした。

さて、本日、2つお話ししたいことがあります。1つは、内科、眼科、耳鼻科を既存3科というんですけども、それ以外の科の学校医参加について、よく医師会とかで話し合っていることです。というのは、明治時代以来からずっといろいろな学校保健に医師は参加してきて、トラコーマ、副鼻腔炎や結核とか、そういう対応ができていたんですけども、ここ最近20年ぐらい、あまりにも疾病が多様化してしまって、子どもさんが妊娠してしまったとか、たばこを吸うとか、重症のスポーツ障害、アトピー性皮膚炎、アレルギー疾患など、どんどん増えてきまして、そのために既存3科ではなかなか対応できないということで、いろいろ討論

した結果、健診のとき、おうちでアンケートを書いてきていただき、それをもとにして内科の先生方が重点的に検診をするということになりました。検診をして、必要があったらほかの科、皮膚科なら皮膚科を紹介するのです。一方、皮膚科からはこういうことを診てくださいという要望が出て、診てくださったりするんですけども、例えば皮膚科だったらかゆいよとか、いろいろと子どもたちからの訴えがあるのですが、整形外科の場合は子どもからの訴えがあまりなくて、健診しなければなかなかわからないということが多くあります。

あと、ちょっとおかしいよといって連れていっていただくときも、例えば皮膚科ならかゆいとかいって子どもさんが訴えるから親御さんが連れていらっしゃるけれども、なかなか訴えがなくて、本当に中学生ぐらいになって手遅れだったとか、そういう症例がパラパラ見られたので、整形外科のほうも学校医になりたいと言っていらして、そのために小金井でそういうことができて本当によかったと思っています。わざわざ検診に、もう一回、行ったりすると有料になったりとか、親御さんの手がかかりますし、疾病が多様化してきましたので、整形外科以外の他の専門医をなるべく学校医にこれからもしていただきたいと、いろいろ考えています。

もう1つは、今、学校医の考え方が変わってきているということです。学校にいる間だけ健康でいいというものではなくて、学校というのはそこで教育する場所ですから、健康の教育をして、一生涯の健康について勉強していただくことを推進することも学校医の仕事の一つであります。

文部科学省の学習指導要領を見るとすごく高度です。薬物依存から何から全部書いてあるのですが、子どもたちに具体的に教えることがなかなかできない。学校医としては、学校にいる間は、「怪我をさせるな」、「死なすな」という言葉があるんですけども、その2つは絶対に守る。あと、集団生活ですから「うつすな」ですね。風疹の人が来たらこうだとか、そういう決まりとかを作っているんですけども、それ以外にも学校にいる間に子どもたちに自分の健康について勉強してもらい、自分で健康増進を図れるようになるのがまた学校医の大切な仕事だなというのを、だんだん医師会でも認識されるようになりました。

乳幼児期から学校保健を連続して、一貫性のある健診や保健指導を積み重ねることによって、大人になって健康を勝ち得ることができるなと思っていますので、そういう健康教育をやはり医師会とかで協力していきたいなと思っています。

教育委員になって本当に学校の先生方のお仕事が多くて驚いています。なるべく医師会としても協力していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

◎西岡市長 専門的なお立場を含めて、貴重なお話を聞かせていただいて、ご意見いただきましてありがとうございます。

◎山本教育長 2つ、簡単にお話ししたいと思います。

まず1つ、生涯学習のことなんですけれども、私もこの立場になってもうすぐ3年目になり、地域のさまざまな大人の方、お年寄りの方も含めてお会いする機会が多いんですが、幸せなお年寄りが非常に多いまちだなといつも思っています。ふらっと小金井 宮地楽器ホールの下

展覧会なんかをのぞくことがあるんですけども、絵にしろ、書道にしろ、さまざまな文化活動を楽しんでいらっしゃる方が、非常にレベルの高い発表をされています。それから、スポーツ活動も盛んですね。子どもたちへの健全育成の活動に携わったり、少年野球の指導に携わったりとか、大きな生きがいを持っているお年寄り、年配者、大人がたくさんいる幸せなまちだと思います。これはやはり小金井の1つの大きな特色だろうなと思っていますので、教育委員会としてはここも強く取り組んでいく必要があると思っています。

もう1つは、学校のことです。先ほどほとんど福元先生が私の意見もおっしゃってくださったんですけども、小金井の学校は、今、頑張っているし、どこの学校に行っても子どもたちは伸び伸びとさまざまな学習活動や特別活動に取り組んでいます。ただ、決して満足はしていません。やはり課題はあると思っています。

ちょうど昨年今ごろ、秋田県大館市の教育長が私の知り合いでして、「ちょっと来ないか。」と招待されたので学校見学をしたり、大館市の幹部の人たちと夜は一緒に席を囲んでお酒を飲んで語り合ったりしました。その時に私は、小金井市の先生たちは頑張っているけれども、まだまだ秋田の指導力のレベルには勝てないと思いました。教育委員会としては、指導室を中心にもっと先生たちに頑張ってもらうように、ルールを引いたり環境を整えたりしていかなければならないと痛感しています。

その目的は何かというと、やはり子どもたちの、受験学力ではなくて本当に一人ひとりが生きる力となるような学力を全ての子どもたちにつけさせてやる、そういう指導をしていくというのが最終的な目標ですから、まだまだ頑張らなきゃならない。そのためには、もっと先生たちにはゆとりを持ってもらって、授業とか生活指導に専念できるような環境を整えてやるということだと思っていますので、教育委員会としての課題も大きいなと思っていますところなんです。

以上です。

◎西岡市長 ありがとうございます。

教育委員会の皆様方から、大変ご熱心で、重要な分野についてご意見をいただきましてありがとうございます。

ICT教育に関しましては、本当に前原小学校の松田校長先生をはじめモデル校の皆様方に頑張っていていただいております。平成32年度の学習指導要領の改訂に向けて、プログラミング教育やアクティブラーニングなど、これまでになかった要素が入ってきますので、その準備をする上でもとても大切な期間だと思っていますので、せっかくなので先生に来ていただいているので、その動きがほかの小中学校に広がるように頑張っていきたいと思っています。

また、タブレットを使うことにやや躊躇するようなご意見もあるんですけども、それはより学びやすくしたり、工夫をしたり、集中力を高めたり、論理的思考を開発したりということでのいろいろな側面があるかと思っていますので、そういったいい面をもっと効果があらわれるように頑張りたいと思っています。

また、「授業力の向上」についても、本当に福元先生、長年の教師生活の上から、また教育

委員としてのご経験から、本当に現場の先生たちが頑張っているお姿をお聞かせいただきました。私もなるべく時間のある限り、公開授業ですとか、研究会に参加し、私自身も勉強させていただいています。全国に誇れる小金井の先生方のご努力をこれからも継続していただけるように、小金井市といたしましても協力をしていきたいと思っております。

渡邊委員からは、施設の老朽化という問題についてご意見をいただきました。議会でもいろいろなご意見をいただいておりますし、なかなか厳しい財政状況の中で段階的に対応してはいますが、十分至らない点もあり、また、本市の他の公共施設の老朽化対策もございますので、たしか建設してから30年以上を経過してしまっている建物が、もう60%ぐらいになるんですね。公共施設の面積的になると学校施設が一番大きいんです。下水道もございます。もう幅広い分野での公共施設の老朽化が平成30年あたりからいよいよ一気にまいりますので、これを平準化して、計画的にしっかり対応していけるような対策が求められておりますので頑張っていきたいと思っております。また、子どもたちが学ぶ環境をやはり改善していかなければいけないと思っておりますので、そのためにも行財政改革に一生懸命取り組んで、その成果を子どもたちの分野にもしっかり還元していければと思っております。

また、岡村委員からの、医師という立場からの本当に貴重な、なかなかふだん、私もお聞きできない現場の話をいただきました。既存3科医だけではなくて、整形外科医の方が学校医になったということが非常に注目されているという話は、大変興味深く聞かせていただきました。子どもたちにとっても、健康というものの尊さは何よりも大切なものですので、小さい子どものうちから自分の健康をしっかり守っていくということを効果的に、また学校の先生だけの力ではなく、市民の力、地域の力、また専門家のお力もお借りしながら高めていくことはとても大切だなと感じました。

学校の先生がどれほど大変かということは、お話を聞かせていただいて、そういう意味で、医師会で健康面で頑張ってもらえている方々、先ほどもお話があったように、学校現場にさまざまな地域の力、市民の力が、今、かかわっていただいているので、そういった分野を含めて協力していただきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、議題の第3号、その他についてを議題といたします。皆様方から何かご発言ございますでしょうか。

それでは、私から最後に一言、発言をさせていただければと思っております。

先ほどの議題の中で、放課後子ども総合プランが取り上げられたところでございますけれども、それと関連しまして、健全育成事業である本市の学童保育所の状況につきましても申し上げさせていただきます。

年々、学童保育所に入所を希望される児童が大変増え、各所とも定員規模を上回る中、弾力的な運用を図りながら、学童保育全員入所の維持に努めているところでございます。保育園の入園希望者も増えておりますし、定員も増えております。当然のことながら、学童保育の希望者も連動して増えてまいります。

また、今年度は、ほんちょう学童保育所に通う児童のために、教育委員会並びに本町小学校のご配慮をいただき、従前のランチルームを分所としてお借りして運営を行ってまいりました。先ほどの放課後子ども教室とともに、学童保育所に関しましても、全員入所を引き続き堅持しつつ、教育委員会のご理解をいただきながら事業の充実を図ってまいりたいと思っておりますので、学校施設の利用なども含め、ぜひご協力をお願い申し上げます。

以上で予定した議題は全て終了いたしました。

最後に、少し個人的なお話になりますが、もう少し、お許してください。

私は、11月2日に開催されました南中学校の創立40周年記念式典に出席をさせていただきました。大変感動的な式典でございましたし、元気な南中の姿を拝見しましたし、合唱も吹奏楽部の演奏も本当にすばらしくて、感銘を受けました。

その折、昭和60年に卒業した第二中学校時代の恩師にお会いし、当時のことや市政の現状など、たくさんお話をさせていただきました。恩師の方は第4代の南中の校長先生も歴任されました。

小学校、中学校というのは人生の中で最も多感な時期を過ごし、時が過ぎてもそこで出会った恩師の方にも出会える場所であることを痛感いたしました。学校は心のふるさとであり、今後も恩師に出会える場所であり続けられるよう、引き続き皆様のお力添えをお願いしたいと思っております。恩師に出会える学校、これはとても大切なことなんだなと、40周年の式典に参加してその先生にお会いして改めて思いました。小金井は恩師に出会える学校、全てがそういう学校だと思っておりますので、これからもそうあり続けていただきたいと思います。

そんな思いを申し上げまして、閉会の挨拶にかえさせていただきます。

以上で、平成28年度第1回総合教育会議を終了いたします。

皆様、ありがとうございました。

(午後5時03分閉会)